

阿部 和則 議員 … 2 件の一般質問

土地ミックスを積極的に進めるべき



町長：あらゆる角度から検討し、判断することが必要

**阿部** 旧白樺団地は平成25年に宅地の分譲が始まった。このところの宅地の需要の高まりと土地の安さから、18区画中16区画が売却済となった。定住・移住人口の増加に貢献している。

しかもこの宅地は、町内業者に限定しているから、その経済的な波及効果は、大きなものがある。個人や企業が必要とする土地を提供し、それを元手に次の施策の原資することができ、全国・北海道でも数少ない自治体になっている。新たに財源を確保するための有効な手段と考えている。

それで町有遊休地を必要人や企業に売却し、その益金でまちづくりに必要な土地を確保する、いわゆる土地ミックスを積極的に進めるべきと考え、次の質問をする。

①給食センター、3保育所の跡地も含めた町有遊休地、この他にも多々あると思うが、これをぜひとも町民向けの分譲地として活用してもらいたい。

②駅周辺のまとまった民有地を先行取得し、再開発の拠点とすべきと思



駅前通に散見される空き地

先行取得しておくことも必要な時代になっていると思う。

**町長**

①現在の学校給食センターの跡地利用は、平成29年度以降の解体を計画している。解体後の跡地は、俱知安町都市計画において第1種住居地域の用途指定を受ける場所であるから、定住促進のための宅地分譲など本町の人口減少緩和につながる施策のための活用が考えられる。

俱知安保育所の跡地は、公園や道路、狭隘する中

学校の駐車場など、地域の生活環境整備に重点を置いた活用を考えている。みなみ保育所の跡地は、周囲が住宅地域となっていて、地域と調整を図りながら、定住人口促進策として宅地分譲を考えている。八幡保育所は、地域センターとしての機能や本町の基幹産業の一つである農業の拠点として、担い手育成や農業研修の施設なども考えられる。いずれにしても、跡地利用については、慎重な検討を行い、検討経過につ

いては所管委員会に報告しながら、有効な利用方法を決めていきたい。

町有遊休地の売却による新たな財源確保という観点も十分に考慮しつつ、本町の将来展望を見据えながら、慎重な検討をしていきたい。

②町内市街地においても新たな用地の取得が難しい状況で、需要が推移していると感じており、今後、必要となる用地について先行取得することも検討する余地があると考えている。

民有地取得に当たっては、取得目的についてあらゆる角度から検討し、可否について判断することが必要であると考えている。

新しいキャッチコピー

**阿部**

スキーの町俱知安、昭和47年につくられた。もう長く町民に親しまれたが、時代が変わり、14年後に新幹線開業、高速道路の開通を迎えることとなり、町民が未来に希望を抱き、町内外にも俱知安町をPRするためにも、新たな

キャッチコピーが必要と思うがいかがか。

**町長**

自治体におけるキャッチコピーは、その町のイメージや特性、目指すべき姿を町民と共有するとともに、町内外にPRするための役立つ手段の一つと考えている。

北海道では、本年8月、新たなキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」を発表したほか、道内においては策定中を含め71の市町村において、総合計画の副題とは別に一貫したキャッチフレーズを決定し、使用している。

キャッチフレーズやロゴマークなどは、視覚的に町のイメージや特性を表現することで、町内外に本町をしっかりと認識してもらおうための有効なツールであり、特に外国人観光客が多い本町においては、英語標記のキャッチフレーズなどは重要なマーケティングツールになり得るものと考えているが、しっかりと戦略を持って取り組む必要があると考えている。